

新年の抱負を語る



田 中 阿 い

新しい年を迎えてまず、今年こそはとねがうことは、いつもいくつがある。けれども、本年ほど喜びにみちて迎える年も、近頃珍しいことである。昭和二八年就任以来の念願だった子どもたちの広い部屋が、年のくれに出来上ったから……。

四〇〇名もの子どもたちが生活する園舎の中に、いつもつかえる広い部屋を一つももっていない悩みを、何かにつけて、いやというほど味わってきてみると、その待望の部屋が出来上った喜びは、表現出来ないくらい大きいものであっていいわけである。

ではその広い部屋で私は、子どもたちがどんなふうに住生活してくれることを願っているのだろうか。子どもたちだけではない。私は幼稚園時代は特にお母さんたちとも仲よくいろいろな問題について話しあったり、しらべあったりすることがたいへん重要であるといつも考えていたので、その広い部屋につづいてお母さんの部屋もつ

くってもらったのである。その部屋のもつ意義、これも私の語りた抱負の一つでもあるのですが……。

まず子どもたちの広間、その広さは、出来ればもう少し広くしたかったけれど、敷地や経費の関係で七間・一〇間の七〇坪にとどめた木造平屋建です。この広い部屋に、ステージはどうしたらよいかと、いろいろ考えぬいて、出来るだけゆったりした全面階段のステージをえらんだ。大勢で集ってお話をしあう時、やはり必要だと考えたからです。

甘えっ子でみんなの前でお話の出来ない子どもたち、恥ずかしがりやで、いつも人の後にかくれるようにしている女の子などみるにつけてこの広い部屋のあのステージに上って堂々と両手をあげて大きく深呼吸をさせてやりたい。そうしてはじめはおずおずしていることであろうが、次第に自信をもって、だれに顔をみられても平気

で話の出来る子にしてやりたい。お友だちと手をつないで、歌をうたったり、大きなベープサートを持って話をさせてやりたい。その機会を数多くして、何でもお話の出来るように、それからそんなお友だちのお話を、楽しくきけるようにさせてやりたい。「聞く」ということ。これはいつもNHK朝のお話出てこいの時間、年少の組も楽しくきけるようになっていことは自分でも驚いているほどで、担当の教師たちの努力がしのばれて、いつも心から嬉しく思っているし、生き生きとした反応が思い思いの様子で全園にただよってくるのをみての感想では、幼児としては上々と思うくらいである。

これをこんどは、少し下手な状態になるかもしれない仲間同志の発表もきいてあげられるように、そんな機会の部屋につかってもらいたいと考えている。誕生会も今までは、小学校の講堂をかりて一斉に全員でおこなっていて、おいろいろの演出もクラス当番なので、一年に一回位しか順番がまわってこない。これをクラス単位にしたらもっともっと大勢の子どもたちが話合う機会を得られるのではないかと考える。

お話の先生に、そろっていつでもお話をきくことが出来ること、これも大きな喜びで、このいつでもつかえる、という楽しさは、何ものにもたとえようがない。

それからリズム遊びの場が出来たこと。これも大きな喜びの一つで、今までのように、静かだった園舎が急にがたと音がして、

小さい手で大きな机をよいしょよいしょと廊下に出す不便さは一切解消してしまったこと、でも一度に全員ということも出来ないの得上手に話しあって仲よく使ってもらうように運営していきたい。せまい部屋の中でのリズム遊びでは、手を前にふって耳の痛いお友だちの耳をいためてしまつて一しょに泣き出すようなこともあったし、まさかり、とかついであげた手が後の子とはちあわせしてけんかにもなったことなどふりかえてみると、思う存分曲にあわせて飛びまわることの出来る場であれば、子どもの自由表現もののびのびとして健康に育つことであろう。

いつか文京第一の山村先生にリズムのあそびをしていただいた折にも、会場に借りた小学校の講堂での動きが、のびのびとしくかた。先生が広やかに、たのしくとききりに助言して下さったのに、まん中や片すみに、小さなかたまりになってしまふ。こんなことも自分の広い部屋で、いつものびのびと遊んでいるうちに解消してしまふことの一つであろう。とにかく園の生活の中でのリズムあそびの分野はまだまだひらかれなければならないと思つている。

これは私共の課題として、今年には十分に研究しあつていきたい。ピアノをひくこと、レコードやその他のものを活用することなど、研究したいことが次々と出現してくる。広い部屋があつたら、こんなことも出来るのに、あんなこともするのに、と夢にえがいたことの一つ一つを、今年からはお互にはげましあつて実現し、子どもた

ちの楽しい生活の場としたい。大勢で楽しい絵画製作も出来ることであろう。集団行動ばかりではない。朝の自由あそびも、せまい部屋の中の積木で空間の少ないままにのびのびと遊べなかつたものもみんなで十分楽しめるようになるし、おかたづけを急がなくてもいいし、もう少し遊ばせたいと思う遊びの場を次の仕事のためにとりかたづけた保育室での自由あそびの場も、今年からはずっと好ましい状態になることであろう。広い部屋についての構造とか設備の状態などは紙面の関係で紹介出来ないし、実際に生活してみないとその楽しさもいきれないので、また次の場合にゆずりたいと思う。

次に私の念願したお母さんの部屋のことにふれたいと思う。

前にものべたように、幼稚園時代の教育はその両親やとりまく家族の人々との協力が多く望まれることは、容易にうなずかれることです。さて実際には、どうであろうか。幼児をもつ若い母親たちが案外私たちの失望するような生活をしていることがあったり、幾人もの子どもを育てたベテランのお母さんが、思いがけないまずい環境をつくり出したりして教師のねがいに遂行していることなどにぶつかると、これはどうしてももっとと近い立場で知りあわねばならないと思われる。そのような場をもってこそ、子どもたちのために幸いな生活がつくられていけるのだと考えたときに、その語りあい知りあう時間、場所などが問題になってくる。母親との話しあいの中で園長のなさねばならぬ部面も多いし、また子どもた

ちの保育中にお互が勉強出来る時間を持ちあうためにも、私はお母さんの部屋がほしかったのです。私共のお母さんの部屋は、広間につづいて十坪の平屋建和室で、十四帖の畳敷です。そなえつけの書棚もつくつたので、ここにはお母さんたちのために、よみものをそなえたい。昨年もとめたテレビもここにおいて、(子どもたちにも楽しく見せたい)。いろいろ話しあいの場にしたい。きらくな心持で幼稚園をたずねて子どもの問題を話しあったり、実際に悩みもちあったりして少しずつ解明していけたら、どんなに楽しいことだろう。日本の母親は、自分の子どもの事ばかりしか考えられないのではないかとさえいわれるせまくるしい家族主義から脱却して、クラス同志、近所同志の協力が出来て、みんなで大勢がいい環境のびてゆけるように心を寄せあうことが出来たら、どんなに楽しいことだろう。語りつかれた時には、お茶もわくいこいの設備もしてあるので、この部屋はきつとお母さんたちの意義深い部屋になってくれることと期待している。

この二つの部屋をつくり上げて、今私の心を去来する深い思いは、子らの幸いのために常に願うこと。たゆみなく努めることだなどとうこと。この二つの部屋をつくることに協力下さった長い間の多くの善意のかたがたに謝すると共に、この部屋のもつ使命を完了することこそ私の今後の務めであることを深く心にしるして、新しい年を楽しく歩みたい。

(静岡・市立安東幼稚園長)